



ジュニア大使30周年記念合同同窓会

～ジュニア大使クラブ主催～

ジュニア大使友情使節団は1985年の米国アラバマ班に始まり、米国ではテキサス、ヴァージニア、オクラホマ、シアトルに、国はマレーシア、オランダ、英国、中国、カナダ、ニュージーランド、パラオと広がり、一般公募と自治体派遣の参加者が全国にいます。

大村 和民 日通旅行、元旅行事業部長

ジュニア大使友情使節団の開始時から携わってきた者として、「よくぞ30も続いているな」というのが率直な感想です。その要因を私なりにたどってみると、やはり①創始者が掲げた使節団の目的が明確であったこと、②事務局の使節団に対する情熱が未だに衰えていないこと、この二つに尽きると思っています。この30年間に、若い時代に広い世界を見た約4,000人近くのジュニア大使が活躍できる時代は既に来て

おりますし、今後ますますその力が日本には必要となってきます。若い時代に戦争を体験した創始者横山総三氏は、世界平和のために自らができること、即ちジュニア大使事業に全身全霊を傾け、日本の若い力が進むべき道の一本を示したと言えます。この事業が絶えることなく細く、永く続くことを心より願います。

「静かに行くものは健やかに行く。健やかに行くものは遠くまでゆく」
(イタリアの諺)



石橋 由香 第1回アラバマ班参加

第1回に北海道から参加した旧姓、羽田由香です。30周年合同同窓会では貴重な機会を与えていただきありがとうございます。第1回のアラバマ班は、シアトルの大学寮に泊まったり東海岸への移動もあり、思い入れの熱い企画が盛りだくさんで、知らずに楽しく過ごしたジュニア大使たち。でもその裏では、たくさんのご苦勞があったと知り、今になって感謝でいっぱいです。ジュニア大使に参加した方々が多方

面で活躍されており、この同窓会でエネルギーをたくさんいただきました。私のこれからについて考える良いキッカケになりそうです。



- 日時：2014年11月2日(日)
13:30～16:00
場所：国立オリンピック記念青少年総合センター
参加者：引率者、ジュニア大使 50名
次第：
13:30-13:35 開会
13:40-14:00 創始者、横山総三先生を偲ぶビデオ上映
14:00-14:10 引率者、関係者紹介
14:20 乾杯 引率者代表
上條 雅子 神奈川大学名誉教授
14:45-15:00 参加者近況発表
小林 実樹 (第28回パラオ班、小学5年)
宮谷 敬子 (武蔵野市ジュニア大使、1988年、主婦・会社員/家業)
滝吉 優子 (第7回シアトル班、医師・リハビリテーション科)
中村 晋作 (第9回マレーシア班、宇宙システム開発利用推進機構勤務)
宮本 荘岳 (第9回マレーシア班、第11回オランダ班、外務省勤務)
15:10-15:20 ウルトラクイズ
各班の訪問先資料より出題
15:45-15:50 IFA からのお願い
15:50-16:00 参加者近況発表
16:00 閉会

世界万華鏡

“アラモの砦・日本碑 100周年記念式典”

ジュニア大使テキサス訪問団 参加者

ジュニア大使テキサス班の訪問先、サンアントニオ市アラモ砦には、日本の地理学者、志賀重昂(しがしげたか)先生が1914年に建立した日本碑がある。多勢のメキシコ軍に対するテキサス軍の戦いと長篠の戦いに同じ思いを見出し、「祖国のためにわが身を犠牲にした心意気に東西の別はない」と刻む。

長年日米友情交流を推進しているSr. Margit Nagyより11月5日の式典に招待され、ジュニア大使の呼びかけ、在ヒューストン高岡望日本国総領事表敬訪問とNASA ジョンソン宇宙センター見学も含めた訪問団を組織した。(IFA 及川伊佐子)

国と文化の違いを乗り越え100年も前に友好の歴史を築いた志賀重昂博士の偉業に触れ、またテキサス・アラモの人々がその偉業を守り語り続けるための献身的な努力に接し、日米友好の絆をさらに発展させなければならぬと感じた。NASAでは、輝いていた時代のアメリカとそれが失せた今の違いを見た。アメリカが再び輝くために、若い力を戦場ではなく国が結集し夢を作る時代が来ていると感じる。

団員は7人、旅行期間5日。長い移動時間を除くと実質2日間の旅にもかかわらず、充実感があり各団員との交流も良くでき爽快感が残る旅だった。

(大村和民、元日通旅行事業部長) 式典を進行された、Mr. Don Olsenが俳句を詠まれると知り、一句詠み、お世話くださったMs. Yuka Dorseyに訳してもらい、返句をお願いした。快く返してくれた句に感激。折しも秋の雨が降っており、「雨深し」とした。



雨深しアラモ砦にきずな浸む

Rain falling deeply on Alamo
Grounds Also saturate our ties
Bright and shining smiles
Exchanged without needing words
Splendid memories / Don Olsen

明るく輝く笑顔の交流 言葉はいらず
思い出広がる / 編集訳

(上田千恵子、24年間引率看護師)

テキサスは1836年から45年までテキサス共和国だったこともあり、唯一、アメリカ国旗と並べてテキサス州旗を

掲揚できるそうだ。その州旗は“Lone Star”、一つ星と呼ばれている。今回の訪問団で得難い時間を分かち合ったTexas Seven Stars(勝手に命名)が、これからも輝きを放ち続けますように。(山部友子、日本語講師、英国班参加)

1988年にジュニア大使として訪問したテキサスを母に見せたく参加した。26年ぶりの訪問はとても有意義なものだった。集まった7人はそれぞれが固有の使命をもっていたように思う。(井上剛、歯科医師、武蔵野市ジュニア大使参加。関連記事：本紙10月号)

サンアントニオやアラモ砦についてはじめて知り、土地の皆さんが碑を誇りに思い、遠い日本に親日感情を抱いてくださっていることなど多くを学んだ。現地の方が招く側として私たちを大切に配慮くださり恐縮し、招かれる側の一人として彼らの想いに応えられたのかと思う。まだまだ若輩ながら今回の貴重な経験を私なりに今後の友情交流に繋げたい。(亀田千栄子、会社経営、アラバマ班、オランダ班参加)

平成26年11月17日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ502
発行責任者：及川 伊佐子
編集：事務局 03(3582)3021
印刷：音和堂印刷刷